

講習の名称	教育の最新事情		
開催日	平成25年8月16日(金)・17日(土)	定員	80名
主な受講対象者	小・中・高等学校教諭		
担当講師	A 渡辺 敏正(関東短期大学こども学科教授) B・D 鈴木 勝雄(経済学部非常勤講師) C 水野 考(経済学部准教授)		
講習の概要	以下の4項目について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。 A 子どもの変化についての理解 B 教職についての省察 C 教育政策の動向についての理解 D 学校の内外における連携協力についての理解		
講習計画(1日目)	09:30~10:30 (60分)	A 脳機能の成熟と発達 ①中枢神経系 ②神経系の機能と構造 ③胎児の発達とストレス	
	10:30~10:40	休憩	
	10:40~11:40 (60分)	A 発達障害と特別支援教育 ①発達障害の概要 ②発達障害各論 ③特別支援教育	
	11:40~11:50	休憩	
	11:50~12:20 (30分)	A 子どもの生活変化 ①心身の変化 ②遊びの変化 ③変化への対応	
	12:20~12:50 (30分)	A 試験 筆記試験を行います。	
	12:50~13:30	昼食休憩	
	13:30~14:30 (60分)	B 子ども観(児童生徒)、教育観等について 基本的な子ども観(児童生徒)、教育観等について、歴史的文献や評論、参考資料等を通して、「不易流行」の視点から再認識し理解する。	
	14:30~14:40	休憩	
	14:40~15:40 (60分)	B 教育的愛情、倫理観、遵法精神等について 教育的愛情、倫理観、遵法精神等について、教員に対する社会的要請が強く求められている現状を踏まえ、参考資料等を通して再認識し理解する。	
	15:40~15:50	休憩	
	15:50~16:20 (30分)	B 学校をめぐる今日的課題等について 学校をめぐる各種報道、世論調査、統計等について、把握し、今日的な課題にいかに対応すべきか、参考資料等を通して再認識し理解する。	
	16:20~16:50 (30分)	B 試験 筆記試験を行います。	
	16:50~17:00	事後評価アンケート	

講 習 計 画 (2 日 目)	09:30～10:30 (60分)	C 学校の教育制度改革の動向 6・3・3・4制、学級規模制等最近の政策動向を把握する。
	10:30～10:40	休 憩
	10:40～11:40 (60分)	C 教員の資質・能力の向上策の動向 免許、研修、組織、職階等の制度をめぐる動向を把握する。
	11:40～11:50	休 憩
	11:50～12:20 (30分)	C 教育委員会制度の動向 教育委員会制度と地方分権化の動向を把握する。
	12:20～12:50 (30分)	C 試験 筆記試験を行います。
	12:50～13:30	昼食休憩
	13:30～14:30 (60分)	D 学校組織の一員としてのマネジメント・マインドについて 学校のグランドデザインを構築するために、学校組織の一員として教職員の意識の在り方や中堅教員の役割等について、参考資料等を通して再認識し理解する。
	14:30～14:40	休 憩
	14:40～15:40 (60分)	D 学校における危機管理上の課題と意識について 児童生徒の安全確保や学校の内外の危機管理上の課題と教職員のより一層の意識の向上について、参考資料等を通して再認識し理解する。
	15:40～15:50	休 憩
	15:50～16:20 (30分)	D 保護者・地域社会との連携とコミュニケーションについて 学校をめぐる諸問題について、学校・家庭・地域社会が連携して対応するため、「学校評価」の視点を中心に、参考資料等を通して再認識し理解する。
	16:20～16:50 (30分)	D 試験 筆記試験を行います。
	16:50～17:00	事後評価アンケート
成績評価の観点	A (1) 脳機能の概略を理解している。 (2) 発達障害の概要と行動的特徴を理解している。 (3) 子どもの心身の変化に関する課題を理解している。 B (1) 各自の教職生活を振り返り、子ども観（児童生徒）、教育観等について省察できたか。 (2) 学校をめぐる今日的課題について理解できたか。 C (1) 教育行政の動向について理解できたか。 D (1) 学校内外での様々な諸問題について、教員として自らの役割を自覚し、組織的対応の必要性を理解できたか。 (2) 児童生徒の安全確保など具体的な危機管理の課題について理解できたか。	
備 考	B (1) 参考資料等は講習当日配布する。 (2) 受講生は、一人一人、教職について問題意識を明確にしておくこと。 D (1) 参考資料等は講習当日配布する。 (2) 受講生は、一人一人、学校内外の連携協力等について問題意識を明確にしておくこと。	